

5 オリンピックの開催に向けて

オリンピックという大きな国際行事は、当時の日本社会にさまざまな変化を与え、スポーツの普及だけでなく、人々の生活全般を見直す運動も行われました。大磯では選手村が開かれ、外国選手が身近な存在になったこともあり、特に地域の美化運動などが呼び掛けられました。オリンピックをきっかけとして大磯で行われたイベントや運動には、どのようなものがあったのでしょうか。

■オリンピック国民運動

1964年の東京オリンピックでは、大会を開催するにあたり、選手や関係者だけでなく、国民ひとりひとりが大会を成功させようという気運を高める運動が進められました。国では大会開催の前年1963年にオリンピック国民運動推進連絡会議が設置され、神奈川県でもオリンピック国民運動神奈川県推進連絡会が設置されました。大磯では、大会直前の8月17日にオリンピック東京大会国民運動大磯町推進大会が大磯小学校の講堂で開かれ、町長や議長、消防団、婦人会等の代表者約150人が参加しました。この大会では、国民運動として挙げられた8項目に対して、どのような運動をするかが話し合われました。

オリンピック国民運動の8項目

- 一、オリンピック理解運動（スポーツマンシップの高揚をはかること）
- 二、国際理解運動（日本人の品位を保ち外国人が日本人を正しく理解するようにすること）
- 三、公衆道徳高揚運動（公德心を高めること）
- 四、商業道徳高揚運動（悪質な商品を販売したり、不正取引をしないこと）
- 五、交通道徳高揚運動（人も車も交通道徳を守ること）
- 六、郷土美化運動（住みよい町を美しくすること）
- 七、健康増進運動（日常生活に健全なレクリエーションを取り入れること）
- 八、選手村及び聖火リレー協力運動
（選手の歓迎及び周辺環境美化を推進し、聖火リレーを周知すること）

『広報大磯』の記事より

■美化運動

オリンピック国民運動の中でも特に力を入れられた運動が、美化運動です。神奈川県では、オリンピック開催の3年前の1961年から美化運動を始め、大会開催直前の1964年9月27日から10月4日の8日間は、「オリンピックを迎えるみんなの美化運動」として、統一清掃日による一斉清掃や、美化大会、パレードなどが行われました。大磯でも、1964年になると、町の広報に、しばしば町内の清掃活動と呼び掛ける記事が掲載されるようになります。海外から選手たちを迎えるにあたり、清掃活動が徹底されることによって、日本全体の衛生意識が向上していきました。

大磯で行われた美化運動

- ・町民ひとりひとりが自宅の周辺を清掃
- ・第1、第3日曜日を「特別清掃日」として公共スペースを重点的に清掃
- ・バス停留所に紙くず入れを設置
- ・町から草花の種を配布

ゴミのない町、美しい町、人情の温かい町でオリンピックを成功させ、ひいては社会の繁栄を願いましょう

主な参考文献など ※ウェブサイトは2021年5月に閲覧

『広報おおいそ』 縮刷版

『東京オリンピック1964』（公益財団法人日本オリンピック委員会ウェブサイト https://www.joc.or.jp/past_games/tokyo1964/）

オリンピック東京大会／神奈川県実行委員会編『第18回オリンピック東京大会／神奈川県』神奈川県 1965

朝日新聞社編『'64東京オリンピック』 1964

大磯町編『大磯町史』7通史編近現代 2008

『首都高の歴史』（首都高速道路株式会社ウェブサイト <https://www.shutoko.jp/fun/history/>）

公益財団法人矢野恒太記念会編『数字でみる日本の100年』改訂第7版 2020

『広報大磯』の記事より

※クレジットのない掲載写真は、当館所蔵です。

制作

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中部大磯町西小磯 446-1

電話：0463-61-4700 FAX：0463-61-4660

2021年（令和3）6月